

特集： 流氷接岸(2015年2月)

2月19日、宗谷管内で今期初めて流氷が接岸しました(枝幸町の海岸)。昨年より23日遅い到来です。流氷は、アムール川から海に流れ込んだ大量の真水に、シベリア方面からの寒気が吹き付け、冷やされて形成され、東樺太海流に乗ってオホーツク海沿岸に南下してくると言われています。ここでは、枝幸町の海岸で撮影した流氷の姿をご紹介します。



①2月19日の早朝。流氷はまだ沖にありました。



②昼近くになると、東風に押されて急速に海岸に近づいて来ました。



③2月20日の早朝。枝幸町の海岸はすっかり流氷に覆われていました。遠くから見ると、白いカーペットを敷いたように見えます。



④海岸に近づいて見てみると、個々の流氷はゴツゴツした大小様々な岩のように見えます。



⑤枝幸町の名所、ウスタイベ千畳岩(せんじょういわ)です。半島のように海に突き出した地形の場所で、巨大な岩が畳のように沢山敷き詰められたような海岸で有名です。



⑥写真下に見える黒い岩が千畳岩。その周囲の海はぐるりと流氷に覆われていました。



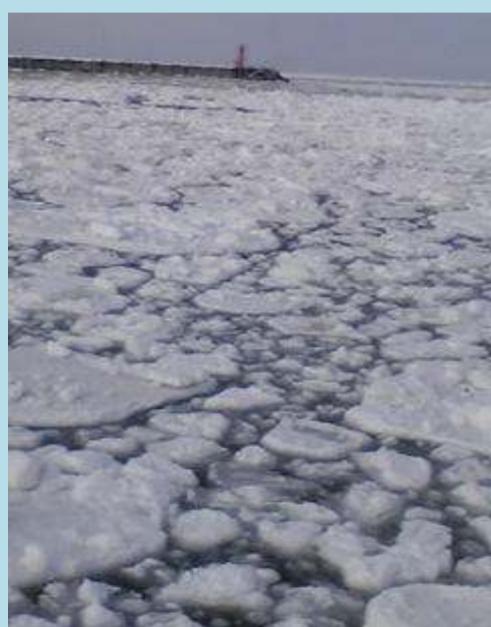
⑦流氷が互いにぶつかりあい、こすれあうときに発する「ギー」、「キッ」という不思議な音は、「流氷の音」と呼ばれ、日本の音風景百選にも選ばれています。(1996年 環境庁選定)

⑧沖まで流氷で埋め尽くされているので、波がほとんど立ちません。水面の動きがなく、時間が止まったような感じです。



⑨全長10mほどの流氷。このような巨大な物体が長距離を旅してここまで来たかと思うと、感動を覚えました。

⑩枝幸港の中に入り込んだ流氷。船は陸揚げされているので大丈夫です。



⑪大小様々な流氷。地球温暖化の影響のためか、昔に比べて大きな流氷が少なくなったことを実感します。

⑫流氷ブルー。写真では識別しにくいのですが、流氷に含まれる無数の気泡とプランクトンの影響で氷の中が綺麗な水色でした。周りの海水も吸い込まれそうな群青色でした。

⑬2月21日早朝。昨日まで接岸していた流氷が、風の影響でまた沖に戻ってしまいました。一晩経つと風向き次第で風景ががらりと変わってしまうところも流氷の面白さの一つです。流氷が完全に去った3月下旬頃から、枝幸の海では毛ガニ漁が始まります。